
中津川市リニアのまちづくりビジョン

平成25年8月

中 津 川 市



市長あいさつ

～市民みんなで取り組むリニアのまちづくり～

私たちのまち“なかつがわ”にリニアがやって来ます。市内にリニア駅ができることにより、品川まで約1時間、名古屋まではわずか13分程度と交通の利便性が飛躍的に高まるとともに、私たちの暮らしも大きく変わることが予測されます。

私はリニアを活用することで、子どもからお年寄りまでがこのまちに住みながら多くの選択肢の中から好みのライフスタイルを見つけ出し、一人ひとりが人生を楽しめるようなまちづくりを目指しています。そして、若者が市外へ出なくても、ふるさとでいきいきと暮らし、働けるまちにしていきたいと考えています。

そのためには、豊かな自然、歴史文化、産業、人材など、本市の持つ優れた地域資源をさらに磨いていくことが重要です。これに加え、本市には新たに、世界に一つしかないリニアの車両基地という産業・観光の目玉も生まれます。まずはこれらを活用して、全国、全世界からリニアを使って時速500kmで本市を訪れた方々に、時速3kmでゆっくりと歩いて楽しんでいただき、本市のファンになっていただくことが必要です。そして、そこから産業振興、企業誘致、雇用拡大、移住・定住などの幅広い分野で地域の活性化につなげていくことが可能であると考えています。

また、「リニアのまちづくり」を成功させるには、関係団体や地域・地権者の皆さまをはじめ、市民一人ひとりのご理解とご協力が不可欠です。これから各事業が具体化するに従い、市民の不安や多くのクリアしなければならない課題が生じることも予想されますが、これらに真摯に向き合い、丁寧なご説明を行いながら「リニアのまちづくり」を市民の皆さまと一緒に進めていきたいと考えています。

本ビジョンの策定に際し、15ヶ月の間に延べ21回もの協議を重ねていただいた中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会、幹事会、地域委員会、女性・若者委員会の皆さま、各地域でリニアを活かした地域づくりについて検討していただいたまちづくり協議会などの皆さま、アンケート調査にご協力いただいた市民や企業、国・県や関係団体など、多くの皆さまのご協力を深く感謝を申し上げます。

平成 25 年 8 月

中津川市長

青山節児



策定委員長あいさつ

～リニア中央新幹線と地域づくり～

今日ここに「中津川市リニアのまちづくりビジョン」を皆さまに公表できることを、策定委員会の委員長として、たいへんうれしく思います。標題からも判るように、このビジョンの主題は中津川市の「地域づくり」方針であります。リニア中央新幹線の整備事業自体は国家的なプロジェクトであり、その当否自体は本ビジョンの目的ではありません。

ただ、その国土幹線級のインフラであるリニア新幹線が中津川をはじめ東濃地域を通ることによって、沿線の地元地域が大きな影響を受けることは避けられません。影響には「地域づくり」にとってプラスになるものも、騒音問題のようにマイナスになるものもあります。私達は、その影響のプラス面を最大限引き出せるように考えました。マイナス面の対策は第一義的には事業者であるJR東海が行いますが、関連事業も含めて「計画」段階で考えられる影響については最小限にするよう考えつつもです。

「地域づくり」とは、地域に生活する皆さんの「くらしぶり」を少しでも良い方向に導いていくとともに、この地域を全国ひいては世界によりよく認知してもらい、訪ねて貰える様にして、より誇らしく思える地域に育てていくことです。多くの人がこの地域を訪ねるようになれば、観光産業をはじめとして地域の地場産業が活気を帯び、結果として地域のくらしを豊かにすることに繋がります。「今のままがいい」「他人が入って来るのは煩わしくて厭だ」という人がいます。しかし、これからどんどん人口が減っていく日本の地域社会において、今の地域生活を維持して行こうとすれば、人々の「交流」の促進に打って出ざるを得ません。地域の人々が外に出て行って大いに動き回り「交流」するとともに、外の地域の人にも、大いにこの地域に来て「交流」して貰うことが、今日の「地域づくり」の王道でしょう。本ビジョンは、その「地域づくり」にリニア中央新幹線を活かすことを考えています。

10年以上先のことですが、みんなでリニアを活かした「地域づくり」に取り組んでいこうではありませんか。

平成 25 年 8 月

中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員長

竹内 伝史